

## APPENDIX 1.1: NEWSPAPER ARTICLE (NUMBERED SENTENCES)

戦後70年 大江健三郎(小説家) 渡辺一夫の声が聞こえる

- ① 漱石は『こころ』の主人公の暗い生の終りに、自分の時代の精神は「明治の精神」だといわせて、次の世代の読者たちに、ひとつ明るい信号を送っている。
- ② そう私は思います。
- ③ 十歳で敗戦、二年たったの新憲法に、九条はもとより 十三条もきみたちには明るいのだと、私は森の中の新制中学で教わりました。
- ④ 「すべて国民は、個人として尊重される」。
- ⑤ それに励まされて、生活の苦しさは知っていながら私は母親に進学したいと頼んだのです。
- ⑥ 入学できた高校の町の書店に、発刊されたばかりの岩波新書は十数冊平積みされている。
- ⑦ 立読みした私は、渡辺一夫『フランスルネサンス断章』を買い、その語りかけの声に引きつけられました。
- ⑧ 私は同じ著者の声 『狂気についてなど』も古本屋で見つけ、もっと個人的な強い声のとりこになりました。
- ⑨ いまも持っている本から写します。
- ⑩ 《「狂気」なしでは偉大な事業はなしとげられない、と申す人々も居られます。それはうそであります。「狂気」によってなされた事業は、必ず荒廃と犠牲を

伴います。真に偉大な事業は、「狂氣」に捕えられやすい人間であることを人一倍自覚した人間によって、誠実に**執拗**に**地道**になされるものです。》

⑪ 五年たって本郷の教室で待ち受けている私らの前に現われ、**外套**を床に置いて講義を始められた先生は穏やかでユーモアのある方でしたが、その声はずっと私が先生の本に聞きとっていた通りの声でした……

⑫ ここにさきの文章を書き写した後、その続きが、疲れて**仮眠**する老人に声となって伝わりました。

⑬ それは古いテキストに久しぶりで**接**したからというのではなく、次つぎの文章がきわめてリアルに、私の今いる、かつてなかった**苛酷**さの現状に**呼応**するからです。

⑭ 先生の声が「狂氣」という時、それは「三・一一」の**悲惨**さをもたらした構造についてであり、さらにあの日起こった国民的な反省を押しつぶしている**強権**についてです。

⑮ 「狂氣」は避けねばならないし、他人を「狂氣」に導いてもならない。

⑯ 冷静が、その行動の**準則**とならねばならない。

⑰ 《そして、冷静とは非行動と同一ではありません。最も人間的な行動の原因となるものです。但し、**錯誤**せぬとは限りません。しかし、常に「**病患**」を己れの自然の姿と考えて、進むでありましょう。》

⑱ 私はこの声を新世代に贈ります。

**APPENDIX 1.2: NEWSPAPER ARTICLE (ANALYSIS)**

Sentence number	Number of presupposing items	Cohesive item	Type	Distance	Presupposed item
<b>PARAGRAPH No. 1</b>					
1	0				
2	2	そう 私	SUB - Cl. REF - A - Per	0 N1	(S1) (=大江健三郎) (in the preceding text- title)
<b>PARAGRAPH No. 2</b>					
3	1	私	REF - A - Per	M1+N1	→私 (S2) →大江健三郎 (title)
4	1	「すべての国民は、個人として尊重される」	LEX.C. - COLL	0	新憲法の十三条 (S3)
5	5	それ 生活の苦しさ 私 進学したい のです。	REF - A - Dem. LEX.C. - COLL REF - A - Per LEX.C. - COLL CONJ のだ	0 N1 N2+M2 N1 0	新憲法の十三条 (S4) 敗戦 (S3) →私 (S3)。。。→大江 (title) 中学で教わりました。 (S3) (S3-S4)
<b>PARAGRAPH No.3</b>					
6	2	入学できた 入学できた高校	LEX.C. - COLL ELLIP - Nom. - Sub. - N-Top	0 M3+N2	進学したい (S5) [私 (S5) →大江が]
7	4	立読みした	ELLIP - Nom. - Ot. - N-Top	0	[書店にあった岩波新書の本] を (S6)

		私 渡辺一夫 (その語りかけの) 声	REF - A - Per LEX.C. - REIT - Same item LEX.C. - REIT - Same item	N.3+M3 N6 N6	私 (S5)。。。→大江 (title) (in the preceding text- title) 声 (in the preceding text- title)
8	8	私 同じ 著者 (同じ著者の) 声 「狂気についてなど」 も <u>もっと</u> 個人的な強い声 とりこになりました。	REF - A - Per REF - A - Comp. LEX.C. - REIT - Superord. LEX.C. - REIT - Same item LEX.C. - COLL REF - A - Comp. REF - A - Comp. LEX.C. - REIT - Syn.	M4+N3 0 0 0 0 0 0 0	私 (S7)。。。→大江 (title) 渡辺一夫 (S7) 渡辺一夫 (S7) 語りかけの声 (S7) 渡辺一夫の作品 (S7) 「フランスルネサンス断章」 (S7) (S7) より 引きつけられました。 (S7)
9	3	いまも持っている <u>本</u> 写します。[absence of the subject] 写します。[absence of the object]	LEX.C. - REIT - Superord. ELLIP - Nom. - Sub. - P-Top ELLIP - Nom. - Ot. - N-Top	0 M5+N3 0	「狂気についてなど」 (S8) [私 (S8) →大江が] [S10 を]
<b>PARAGRAPH No.4 (quotation)</b>					
10	1	〈「狂気」。。。ものです。〉	LEX.C. - COLL	0	「狂気についてなど」 (S8,9)
<b>PARAGRAPH No.5</b>					
11	5	五年たって 私ら 先生 声 先生の本	CONJ - Temp. REF - A - Per. LEX.C. - REIT - Superord. LEX.C. - REIT - Same item LEX.C. - REIT - Superord.	N1 N5+M5 N3 N2 N2	(S6-8) から →私 (S8) →大江さんたち 渡辺一夫 (S7) (S8) (渡辺一夫の本) 「狂気についてな ど」 (S8) を含めて

PARAGRAPH No.6					
12	4	さきの（文章） 疲れて仮眠する <u>老人</u> 声 書き写した。。。、。。。伝わり ました。	REF - A - Dem. LEX.C. - REIT - Superord. LEX.C. - REIT - Same item ELLIP - Nom. - Sub. - P-Top	N1 M6+N5 0 M6+N5	(S10) [私→私ら (S11) →大江] 声 (S11) [私 (S8) →大江が]
13	5	それは 古いテキスト  次々の文章 私 からです。	REF - A - Dem. LEX.C. - REIT - Superord.  LEX.C. - COLL REF - A - Per CONJ - Caus.	0 0 0 N5+M7 0	(S12) 「狂気についてなど」(S12)を含 めて さきの文章(S12) 私(S8)。。。→大江(title) (S12-S13)
14	4	先生 声 「狂気」 悲惨	LEX.C. - REIT - Same item LEX.C. - REIT - Same item LEX.C. - REIT - Same item LEX.C. - COLL	N2 N1 N3 0	先生(S11) 声(S12) 「狂気」(S10) 苛酷さ(S13)
PARAGRAPH No.7					
15	1	「狂気」	LEX.C. - REIT - Same item	0	狂気(S14)
16	2	冷静 その	LEX.C. - COLL REF - A - Dem.	0 0	≠狂気(S15) (S15)
17	1	冷静	LEX.C. - REIT - Same item	0	冷静(S16)
18	4	私 この	REF - A - Per REF - A - Dem.	N9+M8 0	私(S13)。。。→大江(title) (S17)

		声 新世代に送ります。	LEX.C. - REIT – Same item LEX.C. - REIT – Syn.	N3 N16	声 (S14) (S1)
--	--	----------------	---	-----------	-----------------

## **APPENDIX 2.1: BOOK REVIEW (NUMBERED SENTENCES)**

- 1) 「こころ」を読んだのは高校2年生の時。
- 2) 友人のことを考えていたので、感銘を受けました。
- 3) 次はもう40歳でしたが、先生の遺書の言葉「記憶して下さい。私はこんな風にして生きて来たのです」を引用してエッセーを書きました。
- 4) 「こころ」は知識人の語りかけの形で、新しい文体を作っています。
- 5) 特別なルビに注意して音読すると東京弁のリズムがあり、生き生きした効果もあげている。
- 6) 時代を感じさせる風格はありますが、今現在の手紙として読めます。
- 7) 最後の事件を物語った後、さらにスピードと強さを保って、十分に書き終え得るのが作家の実力です。
- 8) それを「明暗」とともに、よく表現していると思う。
- 9) 「こころ」はKの自殺で閉じられず、それをめぐって先生が考え感じたことを書き続けます。
- 10) 働き盛りの仕事の勢いに乗っている。
- 11) 漱石には不似合いですが、小説自体に流行作家を押し進めるエネルギーを感じます。
- 12) 漱石は作品を載せる場所に敏感でした。
- 13) 朝日新聞に入社し、どうやって新聞小説を面白くするかを考え、読者を開拓した。
- 14) 毎年あれだけのものを書くとは、驚くべきことです。
- 15) 今回「こころ」を読み直し、最終2章に動かされた。
- 16) 先生は40代後半のようで漱石と同年代、漱石の感じ方が直接反映している。
- 17) 改めて引きつけられたのは、明治天皇の崩御のところ。
- 18) 〈夏の暑い盛りに明治天皇が崩御になりました。その時私は明治の精神が天皇に始まって天皇に終わったような気がしました。最も強く明治の影響を受けた私どもが、その後に生き残っているのは必竟（ひっきょう）時勢遅れだという感じが烈

(はげ)しく私の胸を打ちました。(中略)私は妻に向ってもし自分が殉死するならば、明治の精神に殉死するつもりだと答えました)

19)若い僕は、漱石にも国家主義的などころがあるのかと反発した。

20)しかし今回、注意深く読み返すと、違ったものに読めました。

21)自分が生きた明治という時代の「人間の精神」を「明治の精神」と言っているのだと。

22)天皇や大日本帝国ではなく、明治の人々の精神が、今までの日本の歴史の中で特別なものだと言いたいのだと。

23)つまり漱石自身の精神をふくめて。

24)「時代の精神」というものがあると、はっきり表現し得た小説として、「こころ」は特別な作品だと思います。

25)100年前の日本人の精神を知りたいければ「こころ」を読めばいい。

26)そういう小説だと強く感じています。

27)漱石の「明治の精神」を僕自身にあてはめると、「戦後の精神」ということになります。

28) 漱石は「こころ」の3年前、講演「現代日本の開化」で、日本人について「誠に言語道断の窮状に陥った」と語った。

29)小説家は小説そのものの勢いに押されて、新しい時代への思い込みを書いてしまうことがある。

30)「こころ」には時代に先んじるリアルな明察がある。

31)先生は明治と共に自分の時代は終わったと感じているが、漱石自身大きい行き詰まりを感じていた。

32) 100年後の今、僕は同じ思いでいます。

33)10歳で戦争が終わり、進駐軍のジープが村にやってきて子供心に恐ろしかった。

34)ところが、12歳で日本国憲法が施行され、中学の三年間、憲法や教育基本法についてならった。

35)「良い時代」になったと思った。

- 36) 今の若い人には想像できないでしょうが、当時の混乱には何か生き生きと動いている感覚があった。
- 37) 個人の権利が保障され、僕も、東京あるいは世界へ出て行って何かやりたいと思った。
- 38) 戦後は明るかった。
- 39) 今79歳の僕にとっては、67年間ずっと時代の精神は「不戦」と「民主主義」の憲法に基づく、「戦後の精神」でした。
- 40) 「集団的自衛権行使」を閣議決定の解釈変更で認めようというやり方は、不戦と民主主義の直接の無視です。
- 41) 「戦後の精神」が真っ向から否定されている。
- 42) 日本が戦争に参加させられる近い将来への市民の驚きの声が低いのが不思議だった。
- 43) 普段は意識しないが、今の壮年の人たちの時代の精神と僕はズレてしまったのだろう、自分らの時代の精神は消え去った、と思いました。
- 44) しかし、希望が見いだせるのは、朝日新聞の世論調査で行使容認反対が63%と増えていること。
- 45) 時代の精神は簡単には忘れられてしまわない、とも考えました。
- 46) さて漱石は、「こころ」の出た年の講演「私の個人主義」で、英国の政治体制を解説しながら、「彼等（ら）（英国人）は不平があると能（よ）く示威運動（つまり、デモですね）を遣（や）ります」と語っていた。
- 47) 私がもう一つ希望を感じるのもデモや集会に参加してです。
- 48) 安倍政権に不平がある人たちが集まってくる。
- 49) 僕も歩きながら、不戦と民主主義の憲法、つまり「戦後の精神」を譲らない老人でいようと思う。
- 50) それで、今回「こころ」を読んだこととつながります。

## APPENDIX 2.2: BOOK REVIEW (ANALYSIS)

Sentence number	Number of presupposing items	Cohesive item	Type	Distance	Presupposed item
<b>PARAGRAPH No.1</b>					
1	1	「こころ」を読んだ	ELLIP - Nom. - Ot. - N-Top.	0	[=大江健三郎さんが] (in preceding text- title)
2	2	友人のこと 考えていた。。。感銘を受け ました	ELLIP - Nom. - Ot. - N-Top. ELLIP - Nom. - Sub. - P-Top.	N1 N1	[=大江 (title)の友人] [=大江 (title)が]
3	4	次は  次 先生 もう40歳でしたが。。。エ ッセーを書きました。	ELLIP - Cl.  CONJ - Temp. LEX.C. - COLL ELLIP - Nom. - Sub. - N-Top.	N1  N1 N1 N2	次 [に「こころ」を読んだ (S1) の] は (≠ 高校二年生の時) (S1) 「こころ」 (S1) の登場人物 [=大江健三郎 (title)が]
<b>PARAGRAPH No.2</b>					
4	2	「こころ」 知識人	LEX.C. - REIT - Same item LEX.C. - REIT - Syn.	N2 0	「こころ」 (S1) 先生 (S3)
5	1	。。。があり、。。。もあげて いる。	ELLIP - Nom. - Sub. - P-Top.	0	[「こころ」] (S4)
6	1	風格はありますが。。。とし て読めます。	ELLIP - Nom. - Ot. - N-Top.	N1	[「こころ」] (S4)

PARAGRAPH No.3					
7	2	最後の事件 作家	ELLIP - Nom. - Ot. - N-Top. LEX.C. - REIT - Superord.	N2 N2	[=「こころ」(S4)の] (=「こころ」(S4)の作家
8	4	それ 「明暗」  よく表現している と思う。	REF - A - Dem. LEX.C. - COLL  ELLIP - Nom. - Ot. - N-Top. ELLIP - Nom. - Sub. - P-Top.	0 N3  N3 N7	実力 (S7) 夏目漱石の作品：「こころ」 (S4)を含めて 「こころ」(S4)が [=大江健三郎(title)は]
PARAGRAPH No.4					
9	4	「こころ」 Kの自殺 先生 先生が考え感じたことを書き続 けます	LEX.C. - REIT - Same item LEX.C. - REIT - Syn. LEX.C. - REIT - Same item LEX.C. - COLL	N4 N1 N5 N1	「こころ」(S4) 最後の事件 (S7) 先生 (S3) 十分に書き終え得る (S7)
10	2	働き盛りの仕事 乗っている	ELLIP - Nom. - Ot. - N-Top. ELLIP - Nom. - Sub. - P-Top.	N2 0	(=作家 (S7)の) 「こころ」(S9)が
11	3	漱石 小説自体 エネルギー	LEX.C. - REIT - Same item LEX.C. - REIT - Superord. LEX.C. - COLL	N10 N1 0	[漱石] (preceding text- title) 「こころ」(S9) 勢い (S10)
PARAGRAPH No.5					
12	2	漱石は	LEX.C. - REIT - Same item	0	漱石 (S11)

		作品	LEX.C. - REIT - Superord.	N2	漱石の作品、「こころ」(S9)を含めて
13	3	朝日新聞 新聞作品 。。。入社し、。。。を考え、。。。を開拓した。	LEX.C. - COLL LEX.C. - REIT - Superord. ELLIP - Nom. - Sub. - P-Top.	0 N3 0	作品を載せる場所(S12) 「こころ」(S9)を含めて [漱石(S12)が]
14	1	驚くべきことです。	LEX.C. - COLL	N11	感銘を受けました。(S2)
<b>PARAGRAPH No.6</b>					
15	5	今回 「こころ」 読み直し、 動かされた [absence of subject] 動かされた	CONJ - Temp. LEX.C. - REIT - Same item LEX.C. - COLL ELLIP - Nom. - Sub. - P-Top. LEX.C. - COLL	N11 N5 N13 N14 N12	(S1+S3) 「こころ」(S9) 読んだ(S1) [=大江健三郎さん(title)は] 感銘を受けました(S2)
16	2	先生 漱石	LEX.C. - REIT - Same item LEX.C. - REIT - Same item	N6 N3	先生(S9) 漱石(S12)
17	3	改めて 引きつけられた 明治天皇の崩御のところ	CONJ - Temp. LEX.C. - REIT - Syn. LEX.C. - REIT - Syn.	N13 N1 N1	(S1+S3) 動かされた(S15) 「こころ」の最終二章(S15)
<b>PARAGRAPH No.7 (quotation)</b>					
18	2	〈夏の暑い盛りに。。。明治の精神に殉死するつもりだとこたえました〉	LEX.C. - COLL	0	明治天皇の崩御のところ

		明治の精神	LEX.C. - REIT - Same item	N17	明治の精神 (in preceding text-title)
<b>PARAGRAPH No.8</b>					
19	4	若い僕 僕 漱石 国家主義的なところ	LEX.C. - REIT - Superord. REF - A - Per. LEX.C. - REIT - Same item LEX.C. - COLL	N15 N18 N2 0	高校二年生、40歳 (S1,S3) =大江健三郎さん (title) 漱石 (S16) (S18)
<b>PARAGRAPH No.9</b>					
20	4	しかし 今回 読み返す 違った	CONJ - Adv. LEX.C. - REIT - Same item LEX.C. - COLL REF - A - Comp.	0 N4 N4 0	(S19) 今回 (S15) 読み直し (S15) (S19) に比べて
21	5	自分 明治の精神 のだ のだと [absence of the verb] のだと [読めました]	REF - A - Per. LEX.C. - REIT - Syn. CONJ - のだ ELLIP - Ver. ELLIP - Nom. - Sub. - P-Top.	N4 N2 0 0 N19+M1	漱石 (S16) 明治の精神 (S18) (S20) [読めました] (S20) [僕 (S19) →大江 (title) ]
22	7	天皇や大日本帝国 明治の人々の精神 と言いたい のだ のだと [absence of the verb] のだと [読めました]	LEX.C. - COLL LEX.C. - REIT - Syn. ELLIP - Nom. - Sub. - N-Top. CONJ - のだ ELLIP - Ver. ELLIP - Nom. - Sub. - P-Top.	N2 0 N2 0 N1 N20+M1	国家主義 (S19) 明治の精神 (S21) [漱石 (S19) が] (S21) [読めました] (S20) [僕 (S19) →大江 (title) ]

		のだと	LEX.C. - REIT - Syn.	0	のだと (S21)
23	4	つまり 漱石自身 漱石自身の精神 。。。をふくめて。	CONJ - Add. LEX.C. - REIT - Same item LEX.C. - REIT - Syn. ELLIP - Cl.	0 N3 0 0	(S21-22) 漱石 (S19) 明治の人々の精神 (S22) (S21-22)
<b>PARAGRAPH No.10</b>					
24	4	「時代の精神」というもの 「こころ」 特別な作品 と思います。	LEX.C. - REIT - Superord. LEX.C. - REIT - Same item LEX.C. - COLL ELLIP - Nom. - Sub. - P-Top.	N1 N8 N13 N22+M1	明治の人々の精神 (S22) 「こころ」 (S15) 働き盛りの仕事の勢い (S10) [僕 (S19) →大江 (title) が]
25	2	100年前の日本人の精神 「こころ」	LEX.C. - REIT - Syn. LEX.C. - REIT - Same item	N2 0	明治の人々の精神 (S22) 「こころ」 (S24)
26	3	そういう 小説 感じています。	REF - A - Dem. LEX.C. - REIT - Superord. ELLIP - Nom. - Sub. - P-Top.	0 0 N24+M1	(S25) 「こころ」 (S25) [僕 (S19) →大江 (title) ]
<b>PARAGRAPH No.11</b>					
27	3	漱石 「明治の精神」 僕自身	LEX.C. - REIT - Same item LEX.C. - REIT - Same item REF - A - Per.	N3 N5 N25+M1	漱石 (S23) 明治の精神 (S21) [僕 (S19) →大江 (title) ]
<b>PARAGRAPH No.12</b>					
28	3	漱石 「こころ」	LEX.C. - REIT - Same item LEX.C. - REIT - Same item	0 N2	漱石 (S27) 「こころ」 (S25)

		日本人	LEX.C. - COLL	N2	100年前の日本 (S25)
29	2	小説家 小説	LEX.C. - REIT - Superord. LEX.C. - REIT - Superord.	0 0	漱石 (S28) 「こころ」 (S28)
30	3	「こころ」 時代を先んじる 明察	LEX.C. - REIT - Same item LEX.C. - COLL LEX.C. - COLL	N1 0 0	「こころ」 (S28) 新しい時代 (S29) 思い込み (S29)
31	4	先生 明治と共に自分の時代 <u>漱石</u> 自身 大きい行き詰まり	LEX.C. - REIT - Same item LEX.C. - COLL LEX.C. - REIT - Same item LEX.C. - COLL	N14 N9 N2 N2	先生 (S16) 明治という時代 (S21) 漱石 (S28) 窮状 (S28)
<b>PARAGRAPH No.13</b>					
32	3	100年後 僕 同じ	CONJ - Temp. REF - A - Per. REF - A - Comp.	0 N29+M2 0	(明治時代) (S31) 僕 (S27) →大江 (title) (S31)
<b>PARAGRAPH No.14</b>					
33	2	10歳で 戦争が終わり	ELLIP - Nom. - Ot. - N-Top. LEX.C. - COLL	M3+N29 N5	[僕 (S32) →大江 (title) が] 戦後 (S27)
34	3	ところが 12歳で。。。ならった 日本憲法	CONJ - Adv. ELLIP - Nom. - Sub. - P-Top. LEX.C. - COLL	0 N30+M3 0	(S33) [僕 (S32) →大江 (title) ] 戦後が終わり (S33)
35	2	「良い時代」になった と思った。	ELLIP - Nom. - Ot. - N-Top. ELLIP - Nom. - Sub. - P-Top.	N1 N31+M3	[戦後が終わり (S33) ] [僕 (S32) →大江 (title) ]

PARAGRAPH No.15					
36	3	今の 当時 当時の混乱	LEX.C. - REIT - Same item REF - A - Dem. LEX.C. - COLL	N3 N2 0	今 (S32) 戦後が終わり (S33) (S33-35)
37	4	個人の権利が保障され、 僕 東京あるいは世界へ出て行って 何かやりたい と思った。	LEX.C. - COLL REF - A - Per. LEX.C. - COLL LEX.C. - REIT - Syn.	N2 N33+M3 0 N1	日本国憲法 (S34) 僕 (S32) →大江 (title) いきいきと動いている感覚 (S36) と思った。 (S35)
38	2	戦後 明るかった。	LEX.C. - COLL LEX.C. - COLL	N4 N2	戦争が終わり (S33) 良い時代 (S35)
39	5	今 僕 6 7年間ずっと時代の精神 「不戦」と「民主主義」の憲法 戦後の精神	LEX.C. - REIT - Same item REF - A - Per. LEX.C. - COLL LEX.C. - COLL LEX.C. - REIT - Same item	N2 N34+M4 N11 N4 N11	今 (S36) 僕 (S37) →大江 (title) 戦後の精神 (S27) 日本国憲法 (S34) 戦後の精神 (S27)
PARAGRAPH No.16					
40	1	「不戦」と「民主主義」	LEX.C. - REIT - Same item	0	(S39)
41	2	戦後の精神 真っ向から否定	LEX.C. - REIT - Same item LEX.C. - COLL	N1 0	戦後の精神 (S39) 直接の無視 (S40)
PARAGRAPH No.17					
42	2	近い将来	LEX.C. - COLL	N2	今 (S39)

		市民の驚き声が低い	LEX.C. - COLL	N13	(S28)
43	3	今の 僕 自分らの時代の精神	LEX.C. - REIT - Same item REF - A - Per. LEX.C. - REIT - Syn.	N3 N37+M5 N1	今 (S39) 僕 (S39) →大江 (title) 戦後の精神 (S41)
<b>PARAGRAPH No.18</b>					
44	4	しかし 希望が見いだせる  行使 (容認反対) 反対	CONJ - Adv. ELLIP - Cl.  LEX.C. - REIT - Superord. LEX.C. - COLL	0 0  N3 N1	(S43) 「自分らの時代の精神は消え去った」 (S43) について 集団的自衛隊行使 (S40) 驚き声 (S42)
45	4	時代の精神 と (も) 考えました。 とも考えました。 とも考えました。	LEX.C. - REIT - Superord. ELLIP - Nom. - Sub. - P-Top. REF - A - Comp LEX.C. - REIT - Syn.	N1 N38+M6 N1 N1	戦後の精神 [→僕 (S43) →大江 (title)] と思いました。 (S43) と思いました。 (S43)
<b>PARAGRAPH No.19</b>					
46	5	さて、 漱石 「こころ」 英国人 不平	CONJ - Add. LEX.C. - REIT - Same item LEX.C. - REIT - Same item LEX.C. - COLL LEX.C. - COLL	0 N14 N15 N17 N1	(S45) 漱石 (S31) 「こころ」 (S30) 日本人 (S28) 反対 (S44)
<b>PARAGRAPH No.20</b>					
47	3	私	REF - A - Per.	N40+M6	→僕 (S43) →大江 (title)

		もう一つ希望 デモや集会	REF - C - Comp. LEX.C. - COLL	N1 0	(S49) デモ (S46)
48	3	安倍政権  不平 人たちが集まってくる。	LEX.C. - COLL  LEX.C. - REIT - Same item ELLIP - Nom. - Ot. - N-Top.	N7  N1 0	「集団的自衛隊行使」を閣議決定 の解釈変更で認めようというやり 方 (S40) 不平 (S46) [ (S47) のデモや集会に ]
49	4	僕 歩きながら、譲らない 不戦と民主主義の憲法 戦後の精神	REF - A - Per. LEX.C. - COLL LEX.C. - REIT - Same item LEX.C. - REIT - Same item	N41+M7 N1 N9 N7	→私 (S47) →大江 (title) デモ (S47) (S39) 戦後の精神 (S41)
50	4	それ 今回 「こころ」 読んだ	REF - A - Dem. LEX.C. - REIT - Same item LEX.C. - REIT - Same item ELLIP - Nom. - Sub. - P-Top.	0 N34 N3 0	(S49) (S15) 「こころ」 (S46) [僕 (S49) が]

## APPENDIX 3.1: FICTIONAL NARRATIVE (NUMBERED SENTENCES)

### 第一章 <sup>ザ・ケイヴ・マン</sup>「六居人」きたる

- 1 松本の空港に車で迎えに来た妹のアサは、こういう報告をした。
- 2 ——今度はしばらく「森の家」にいらえるということで、<sup>ザ・ケイヴ・マン</sup>「六居人」の若い人たちは喜んでいきます。
- 3 劇団の女性幹部が独断専行で……一応あたしは相談を受けてたけれど……直接東京に話に行ったことを知って、これまでかれなりに注意深く準備したことがブツ壊れるんじゃないか、と劇団のリーダーは心配してたようですけど……
- 4 それに以前から町の打診のある、新しい道路の建設に障害になるからと、兄さんが賞をもらった際の記念碑をどうするかという件ですが、千櫨さんの言われた通り、しかるべきところに移動させる必要はない、記念碑の台座は取り壊してもらっていい、と伝えました。
- 5 ただ兄さんがお母さんの書いたものから選んで、自分の詩を続けた、碑の本体は取引たい。
- 6 そう申し出ました。
- 7 建てられて以来、兄さんは一度も実物を見てないわけですね？
- 8 一度見ていきましょう。
- 9 あれのある本町の大川原まで一時間半かかります。
- 10 少し眠られますか？
- 11 それからアサはしっかり口をつぐんだ横顔を見せて車を走らせ、ほぼいった通りの時間で川岸が公園になっている地点に着いた。
- 12 新しい橋で川を渡り、道路を広げる工事を一時的に停止してある一郭。
- 13 母親が植えたと聞いている石榴と椿が片付けられて地面が剥き出しになっているなか、隕石だという丸い石が置かれている。

14 いったん川の側に降りて見上げると、植物のような浅黄色の石には、ただ五行の文字だけ、自分が万年筆で書いたものを拡大したのだとわかる書体で刻まれていた。

15 コギーを森に上らせる支度もせず

川流れのように帰って来ない。

16 雨の降らない季節の東京で、

老年から 幼年時まで

逆さまに 思い出している。

17 ——聞いて想像してたほど悪くない、と私はいった。

18 ——最初のお母さんの二行の詩は、初めから評判が良くなかった、とアサはいった。

19 俳句でも短歌でもないと悪口をいわれた……

20 それは仕方ないけれど、記念碑の会の顧問の先生から松本に呼び出されて、文句をつけられた。

21 美空ひばりの歌の戯作<sup>パロディ</sup>じゃないか、と……

22 ひばりさんのは川の流れのよういで、こちらは川流れのようにはです。

23 母は盗作はしません、と行ってやったわ。

24 この土地の者は、川で水死した人や、助けられはしたけれど大水で流された人たちを川流れと呼ぶ……

25 いったん川を流れた人は、亡くなった人は当然だけれど、救助された人も、やがては村を出て行くことになるかとみなしている、とも説明しまして。

26 東京で勉強させてもらいさえすれば、必ず村に帰って来ると約束したのに、川流れのように行きっぱなしという点では、むしろ諷刺詩じゃないですか、ともいってみました。

27 それは記念碑を建ててもらおう兄のことをしってられる、土地の人たちにはよくわかったことです。

28 一行目こそ確かにわかり難いかも知れませんがというと、大学の先生ですからね、自分はこの地方の歴史と伝承について本を書いていると、こちらの説明は受け付けなかった。

29 それでも、兄さんから届いた下書きどおりに彫られましたが……

30 あたしはむしろ先生が、一行目を理解していられたかどうかあやしいと思う。

31 あたしらの家で兄さんが子供の時コギーと呼ばれてたこと、そしてその兄さんが、やはりコギーと呼ぶ分身と一緒に暮らしているつもりだったことは、知ってられないはずでしょう？

32 よほど兄さんの小説に詳しくないと……

33 森に上らせるというのが、亡くなった人を弔うというほどの意味だと、先生が伝承研究をつうじて調べられている、というのならありえるでしょうけど……

34 ——きみは、ここから川下に延びてる中洲の、どのあたりにお父さんの遺体が引っかかってたか、知らないわけだね？と私はいった。

35 遺体が戻って来たすぐ後のことは、きみの人生最初の記憶としてある、といってるが……

36 ——コギー兄さんに、死んだお父さんの蒲団を一周りして、その傍に死んだ子供がひとり寝かされてないか見て来いといわれたのね。

37 あれから二十年ほどたって、兄さんからこういう夢を見ると、笑い話のようにも、恋しく苦しい実話のようにも聞いて、あれがもしかしたらお父さんの亡くなられた短艇から逃げ出したことと関係していたのか、と気が付いた……

38 顔に布をかけて横になってる大人の周りを廻って、躓いて倒れて、伸ばした手に濡れた髪の毛がさわった。

39 それを思い出すから、あたしはお父さんは川流れで死んだと言い張る兄さんを信じるんです。

40 ——村が合併される前の、この町の新制高校にぼくが一年だけ通ったろう？

- 41 美術の時間にあの中洲に写生に来たんだ。
- 42 本町の出身の美術の先生が、中洲の端のネコヤナギの群生に向けてイーザルを立てて、油絵を描いていた。
- 43 ぼくがブラブラ歩いて行くと、ここは昔から「長江さんの川流れが上ったところ」というのやが、おまえの家と関係あるか、と声を掛けられた。
- 44 ぼくらの家では否定されてたお父さんの水死が、家の外では誰でも知ってることだった、というわけ。
- 45 あの短い詩に川流れという言葉を書き込んだ、お母さんの理由が、そのあたりにあったかも知れない。
- 46 暗く重たく茂った桜並木（すでに全体の伐採がきまっているという）の下を歩いて車に戻り、そこから二十分ほどの森のなかの谷間に向かうと、アサがそれまでずっと胸のうちに整理していた模様のことを私に話した。
- 47 ——あたしはね、コギー兄さんが「赤革のトランク」の懸案を果たすこともするし、それはもともとあたしの言い出したことですが、「森の家」にしばらく滞在するつもりともいって来たのが嬉しくて……
- ? 48? しかし、やはり年齢だなあ、とも思いました。
- 49 年齢だ、というのはそうやってひとつひとつ始末をつけてゆくやり方ということだけれど、死を考えるのが自然な年齢だ、ともいうことです。
- 50 あたしも御同様に老年だから、そのことを思います。
- 51 しかしね、いちばん手強い問題は、その前にあるのじゃない?
- 52 そのようにして死を覚悟するにしても、いまからその日が来るまでの時間、ということがあるでしょう?
- 53 死そのものは、放っとしてもやって来ますが、それまでの生の残りには自分で責任をとらなきゃいけない。
- 54 あたしはお母さんの詩のようなもの……まあ俳句と呼ぶことにして、それを考えあわせると、あれはここに帰って石を見る兄さんへのメッセージだったのじゃないかと思う。

55 コギーを森に上らせる支度もせず／川流れのように帰って来ない。

56 それに対して、兄さんの三行は、自分は確かにここへ戻って来ない、さらに（エリオットの引用でしょう？）まかりいできましたこちらは雨なき月の老いの身でいろいろ考えてみている、としおらしいけれど、お母さんの二行に比べれば、やはりのんき坊主の応答ですよ。

57 お母さんには、この俳句を作った時点でも兄さんはコギーのままだし、そしてお母さんはアカリさんなどのように森に上らせる支度をするのかと、心にかけて続けてたんです。

58 むしろあたしはね、兄さんが「森の家」にしばらく住もうと思立ったのは、そうしたいろんな意味をこめての、コギーを森に上らせる支度のひとつなんだ、と思っています。

59 それからしばらく黙って運転した後、アサは車を道路側脇に寄せた。

60 ——ここからけものみちのような坂を登って行けば、「森の家」への近道。

61 兄さんも忘れてはいないでしょう？

62 今日は遅くなったから、ここで降りてもらってあたしは真っすぐ帰ります。

63 ひと休みして夕食を届けますね。

64 兄さんの荷物も一緒に。

65 さて、東京でコギー兄さんと話をして来た女性ですが、明日、劇団の穴井マサオくんと……この人が埴吾良さんのお弟子さんだったことは、知ってますね……「森の家」に来ます。

66 兄さんの滞在の間、いろいろ一緒にやってもらいたい話を、兄さん相手にとっかかりだけはつけて来た、と彼女はいますが、明日はまず、話のついた記念碑の始末に若い劇団員も来ます。

67 仕事が終わった後で、これからの付き合いのための話し合いをしてもらいます。

68 かれらはとても期待しています。

69 よろしくねがいますよ！

### APPENDIX 3.2: FICTIONAL NARRATIVE (ANALYSIS)

Sentence number	Number of presupposing items	Cohesive item	Type	Distance	Presupposed item
<b>PARAGRAPH No.1</b>					
1	2	妹のアサ こういう	ELLIP - Nom. - Ot. - N-Top REF - C - Dem.	N2 0	[一人称→兄さん (S4) の] 妹 (S2-3)
2	2	いられる  ザ・ケイヴ・マン 「六居人」	ELLIP - Nom. - Ot. - N-Top  LEX.C. - REIT – Same item	N2 N1	[聞き手= S1 の一人称 (→兄さん (S4) ) ザ・ケイヴ・マン 「六居人」 (in the preceding text-title)]
3	3	劇団 あたし 話に行った	LEX.C. - REIT - Superord. REF - A - Per. ELLIP - Nom. - Ot. - N-Top	0 N1 0	「六居人」 (S2) アサ (S1) [聞き手= S2 の一人称 (→兄さん (S4) ) との話]
<b>PARAGRAPH No.2</b>					
4	3	それに 兄さん 、と伝えました。	CONJ - Add. LEX.C. - COLL ELLIP - Nom. - Sub. - P-Top	0 N2 M1+N1	(S3) 妹 (S1) [あたし (S3) (→妹のアサ) ] が
5	4	ただ 兄さん 碑	CONJ - Adv. LEX.C. - REIT – Same item LEX.C. - REIT - Syn.	0 0 0	(S4) 兄さん (S4) 記念碑 (S4)

		碑の本体は取引たい	LEX.C. - COLL	0	記念碑の台座は取り壊してもらって いい (S4)
6	2	そう 申し出ました。	SUB - Cl. ELLIP - Nom. - Sub. - P-Top	0 N3+M1	(S4-5) [あたし (S3) (→妹のアサ) ] が
7	2	兄さん 実物	LEX.C. - REIT – Same item LEX.C. - REIT – Gen. word	N1 N1+M1	兄さん (S5) [碑 (S5) →記念碑 (S4) ]
8	3	一度見て 見て [absene of the object] いきましよう。	LEX.C. - COLL ELLIP - Nom. - Ot. - N-Top ELLIP - Nom. - Sub. - P-Top	0 M2+N1 0	見てない (S7) [実物 (S7) →記念碑を] [私たち = 兄さん (S7) と]
9	1	あれ	REF - A - Dem.	N2+M2	実物 (S7) →記念碑
10	1	眠れます	ELLIP - Nom. - Sub. - P-Top	N2	[兄さん (S7) が]
<b>PARAGRAPH No.3</b>					
11	5	それから アサ 車 ほぼいった通りの <u>時間</u> に着いた。	CONJ - Temp. LEX.C. - REIT – Same item LEX.C. - REIT – Same item LEX.C. - REIT – Gen. word LEX.C. - COLL	0 N9 N9 N1 N2	(S10) アサ (S1) 車 (S1) 一時間半 (S9) (S8)
12	4	川 道路を広げる工事 [absene of the verb] [absene of the verb + subject]	LEX.C. - COLL LEX.C. - COLL ELLIP - Ver. ELLIP - Nom. - Sub. - P-Top	0 N7 0 0	川岸 (S11) 新しい道路の建設 (S4) [に着いた]。(S11) [私たち (=アサ (たち) が 〈アサ (S11) 〉 ]
13	4	母親	LEX.C. - REIT - Syn.	N7	お母さん (S5)

		と聞いている 石榴と椿が片付けられて地面 が剥き出しになっている 隕石だという丸い <u>石</u>	ELLIP - Nom. - Ot. - N-Top LEX.C. - COLL  LEX.C. - REIT – Superord.	N5 0  N8	[私=兄さん (S7) が] 道路を広げる工事 (S12)  記念碑 (S4)
14	5	川 植物のような浅黄色の石 石 自分 自分が万年筆で書いたもの	LEX.C. - REIT – Same item LEX.C. - COLL LEX.C. - REIT – Same item REF - A - Per. LEX.C. - REIT - Superord.	N.1 0 0 N6 0	川 (S12) 隕石だという丸い石 (S13) 石 (S13) =兄さん (S7) (S15-S16)
<b>PARAGRAPH No.4 (poem)</b>					
15	0*				
16	0*				
<b>PARAGRAPH No.5</b>					
17	2	聞いて想像してた 私	ELLIP - Nom. - Ot. - N-Top REF - A - Per.	0 N8+M1	[詩 (S15-16) が] [自分 (S14) →兄さん (S7) ]
<b>PARAGRAPH No.6</b>					
18	4	最初のお母さんの <u>二行の詩</u> お母さん 評判が良くなかった  アサ	LEX.C. - REIT – Syn. LEX.C. - REIT – Syn. LEX.C. - COLL  LEX.C. - REIT – Same item	N2 N4 0  N6	(S15) 母親 (S13) 聞いて想像してたほど悪くない (S17) アサ (S11)
19	3	俳句、短歌 悪口	LEX.C. - COLL LEX.C. - COLL	0 0	お母さんの二行の詩 (S18) 評判が良くなかった (S18)

		悪口を言われた……	ELLIP - Nom. - Sub. - P-Top	0	[お母さんの二行の詩 (S18) が]
20	4	それ 記念碑 文句 呼び出されて、文句をつけられた	REF - A – Dem. LEX.C. - REIT – Same item LEX.C. - COLL ELLIP - Nom. - Sub. - N-Top	0 N15 0 N1	(S19) 記念碑 (S4) 悪口 (S19) [アサ (S18) が]
21	4	<sup>パロディ</sup> 戯作 <sup>パロディ</sup> 戯作じゃないか と…… [absence of the verb] [absence of the verb+ subject]	LEX.C. - COLL ELLIP - Nom. - Ot. - N-Top ELLIP - Ver. ELLIP - Nom. - Sub. - P-Top	0 N2 0 N2	文句 (S20) [最初の二行 (S18) ] [文句をつけられた (S20) ] [アサ (S18) が]
<b>PARAGRAPH No.7</b>					
22	4	ひばりさん ひばりさん <u>のは</u> こちら 川流れのように	LEX.C. - REIT - Syn. SUB - Nom. REF - A – Dem. LEX.C. - REIT – Same item	0 0 N3 N6	美空ひばり (S21) ひばりさんの [歌 (S21) ] は 最初のお母さんの二行の詩 (S18) (S15)
23	4	母 盗作 とってやった [absence of the subject] とってやった[absence of the object]	LEX.C. - REIT - Syn. LEX.C. - COLL ELLIP - Nom. - Sub. - P-Top ELLIP - Nom. - Ot. - N-Top	N4 0 N4 N2	お母さん (S18) (S21-22) [アサ (S18) は] [記念碑の会の顧問の先生 (S20) に]
24	5	この (土地) 土地	REF - A – Dem. LEX.C. - REIT – Superord.	N3 N3	(S20) 松本 (S20) を含めて

		川流れ [と説明しました] [と説明しました[absence of the subject]]	LEX.C. - REIT – Same item ELLIP - Ver. ELLIP - Nom. - Sub. - N-Top	N1 0 N5	(S22) [とも説明しました (S25) ] [アサ (S18) ]
25	4	川を流れた人は 亡くなった人 とも説明しました とも説明しました[absence of the subject]	LEX.C. - COLL LEX.C. - REIT - Superord. REF - A - Comp. ELLIP - Nom. - Sub. - N-Top	0 0 0 N6	川流れ (S24) 水死した人 (S24) (S24) [アサ (S18) ]
<b>PARAGRAPH No.8</b>					
26	5	川流れのように 行きっぱなし 諷刺詩 ともいってみました いってみました[absence of the subject]	LEX.C. - REIT – Same item LEX.C. - COLL LEX.C. - REIT - Syn. REF - A - Comp. ELLIP - Nom. - Sub. - N-Top	N3 0 N4 0 N7	川流れのように (S22) 村を出て行くこと (S25) <sup>パロディ</sup> 戯作 (S21) (S24-25) [アサ (S18) ]
27	4	それ 記念碑 兄 (のこと) 土地 (の人たち)	SUB - Cl. LEX.C. - REIT - Same item LEX.C. - REIT - Syn. LEX.C. - REIT - Same item	0 N6 N19 N2	(S24-26) 記念碑 (S20) 兄さん (S7) この土地 (S24)
28	6	一行目 大学の先生  この	LEX.C. - REIT – Syn. ELLIP - Nom. - Sub. - P-Top  REF - A - Dem.	N9 N7  0	最初のお母さんの二行の詩 (S18) [記念碑の会の顧問の先生 (S20) が] (S27)

		地方 こちらの 説明	LEX.C. - REIT - Syn. REF - A - Per. LEX.C. - REIT - Superord.	0 N9 0	土地 (S27) = アサ (S18) の (S22 -S27)
29	4	それでも、 兄さん 下書き 彫られました	CONJ - Adv. LEX.C. - REIT - Syn. LEX.C. - REIT - Syn. ELLIP - Nom. - Sub. - N-Top	0 N1 N14 N10	(S28) 兄 (S27) 自分が万年筆で書いたもの (S14) [最初のお母さん二行 (S18) ]
<b>PARAGRAPH No.9</b>					
30	3	あたし 先生 一行目	REF - A - Per. LEX.C. - REIT - Superord. LEX.C. - REIT - Same item	N11 N9 N2	= アサ (S18) 記念碑の会の顧問の先生 (S20) 一行目 (S28)
31	4	あたしら 兄さん コギー 知ってられない	REF - A - Per. LEX.C. - REIT - Same item LEX.C. - REIT - Same item ELLIP - Nom. - Sub. - P-Top	N11+M1 N1 N15 0	あたし (S30) →アサ (S18) 兄さん (S29) コギー (S15) [先生 (S30) が]
32	3	兄さん に詳しくない と……[absence of the verb]	LEX.C. - REIT - Same item ELLIP - Nom. - Ot. - N-Top ELLIP - Ver.	0 N1 0	兄さん (S31) [先生 (S30) が] [いうわけだ? 思う? (S30-31) ]
<b>PARAGRAPH No.10</b>					
33	5	森に上らせる 亡くなった人 先生	LEX.C. - REIT - Same item LEX.C. - REIT - Same item LEX.C. - REIT - Same item	N17 N7 N2	(S15) (S25) 先生 (S30)

		伝承研究 ありえる	LEX.C. - COLL SUB - Ver.	N4 N2	この地方の歴史と伝承について本を書いている (S28) [ (先生が、一行目を) 理解されていた (S30) ]
<b>PARAGRAPH No.11</b>					
34	5	きみ ここ お父さん 遺体 私	REF - A - Per. REF - A - Dem. LEX.C. - COLL LEX.C. - COLL REF - A - Per.	N14+M1 N19 N1 0 N23+M1	[→あたし (S30) →アサ (S18) ] [今いる場所、川の側] (S14) 兄さん (S32) 亡くなった人 (S33) →私 (S17) →兄さん (S7)
35	2	遺体 きみ	LEX.C. - REIT - Same item REF - A - Per.	0 N14+ M2	お父さんの遺体 (S34) [→きみ (S34) →アサ (S18) ]
<b>PARAGRAPH No.12</b>					
36	5	コギー兄さん <u>死んだ</u> お父さん お父さん といわれた コギー兄さん。。。といわれた <u>たのね。</u>	LEX.C. - REIT - Syn. LEX.C. - REIT - Syn. LEX.C. - REIT - Same item ELLIP - Nom. - Sub. - P-Top LEX.C. - COLL	N4 N1 N1 N14+M3 0	コギー, 兄さん (S31) お父さんの遺体 (S34) お父さん (S34) [→きみ (S35) →アサ (S18) ] 人生最初の記憶 (S35)
37	7	あれ あれから 兄さん こういう	REF - A - Dem. CONJ - Temp. LEX.C. - REIT - Same item REF - A - Dem.	0 0 0 0	(S36) (S36) 兄さん (S36) (S36)

		お父さん 亡くなられた短艇 、と気が付いた……	LEX.C. - REIT - Same item LEX.C. - COLL ELLIP - Nom. - Sub. - P-Top	0 N12 N15+M3	死んだお父さん (S36) 水死した人 (S24) [→きみ (S35) →アサ (S18) ]
<b>PARAGRAPH No.13</b>					
38	6	顔、濡れた髪 顔に布をかけて 大人 濡れた 伸ばした手 廻って、倒れて、さわった	ELLIP - Nom. - Ot. - N-Top LEX.C. - COLL LEX.C. - REIT - Superord. LEX.C. - COLL ELLIP - Nom. - Ot. - N-Top ELLIP - Nom. - Sub. - P-Top	0 0 0 0 N16+M3 N16+M3	[お父さん (S37) の] 亡くなられた (S37) お父さん (S37) 亡くなられた短艇 (S37) [→きみ (S35) →アサ (S18) の] [→きみ (S35) →アサ (S18) ]
39	8	それ 思い出す あたし お父さん 川流れ 川流れで死んだ 兄さん んです。	REF - A - Dem. LEX.C. - COLL REF - A - Per. LEX.C. - REIT - Same item LEX.C. - REIT - Same item LEX.C. - COLL LEX.C. - REIT - Same item CONJ - のです。	0 N3 N17+M3 N1 N12 N1 N1 0	(S38) 記憶 (S35) →きみ (S35) →アサ (S18) お父さん (S37) 川流れ (S26) 亡くなられた短艇 (S37) 兄さん (S37) (S38)
<b>PARAGRAPH No.14</b>					
40	3	この 町 ぼく	REF - A - Dem. LEX.C. - REIT - Superord. REF - A - Per.	N30 N30 0	本町の大川原 (S9) 本町の大川原 (S9) →兄さん (S39)

PARAGRAPH No.15					
41	5	美術の時間 あの あの <u>中洲</u> 。。。来た  んだ。	LEX.C. - COLL REF - A - Dem. LEX.C. - REIT - Same item ELLIP - Ver.  CONJ - のです。	0 N6 N6 M1  0	新制高校 (S40) <u>川下に延びてる</u> 中洲 ( (S34) 中洲 (S34) [ぼくたち (S40) →兄さんたち (S39) ] (S39-40)
42	2	中洲 美術の先生。。。油絵を描い ていた。	LEX.C. - REIT - Same item LEX.C. - COLL	0 0	中洲 (S41) 美術の時間 (S41)
43	4	ぼく ここ 川流れ ぼくが。。。声を掛けられた	REF - A - Per. REF - A - Dem. LEX.C. - REIT - Same item ELLIP - Nom. - Ot. - P-Top	N2+M1 0 N4 0	ぼく (S40) →兄さん (S39) 中洲 (S42) 川流れ (S39) [先生 (美術の先生 (S42) に) ]
44	5	ぼくらの家 お父さん お父さんの水死 家の外 というわけ。	LEX.C. - REIT - Syn. LEX.C. - REIT - Same item LEX.C. - COLL LEX.C. - COLL CONJ - のだ。	N12 N4 0 N1 0	あたしらの家 (S31) お父さん (S39) 川流れ (S43) 美術の先生 (S42) (S43)
45	5	あの 短い詩 川流れ お母さん	REF - A - Dem. LEX.C. - REIT - Syn. LEX.C. - REIT - Same item LEX.C. - REIT - Syn.	N26 N26 N1 N21	最初のお母さんの二行の詩 (S18) 最初のお母さんの二行の詩 (S18) 川流れ (S43) 母 (S23)

		そのあたり	REF - A - Dem.	0	(S44)
<b>PARAGRAPH No.16</b>					
46	6	桜並木 すでに全体の伐採がきまっ ている 車 車に戻り アサ 私	LEX.C. - COLL LEX.C. - COLL LEX.C. - REIT - Same item LEX.C. - COLL LEX.C. - REIT - Same item REF - A - Per.	N34 N33 N34 N34 N27 N4+M2	公園 (S11) 道路を広げる工事 (S12) 車 (S11) (S11) アサ (S18) ぼく (S40) → 兄さん (S39)
<b>PARAGRAPH No.17</b>					
47	5	あたし コギー 兄さん 「赤革のトランク」の懸案 「森の家」にしばらく滞在す るつもりともいって来た 嬉しくて……	REF - A - Per. LEX.C. - REIT - Syn. LEX.C. - COLL LEX.C. - COLL CONJ - Add.	0 N7 N14 N44 0	アサ (S46) 兄さん (S39) 兄さんの小説 (S32) (S2) (S48)
48	4	しかし 年齢 とも思いました。 とも思いました。	CONJ - Adv. ELLIP - Nom. - Ot. - N-Top REF - A - Comp. ELLIP - Nom. - Sub. - P-Top	0 0 0 M1	(S47) [兄さん (S47) の] (S47) [あたし (S47) → アサ (S46) が]
49	2	年齢だ、 ひとつひとつ始末をつけてゆ く	LEX.C. - REIT - Same item LEX.C. - COLL	0 N1	(S48) 「赤革のトランク」の懸案を果たす こと (S47)

PARAGRAPH No.18					
50	6	あたし あたし <u>も</u> 御同様に 老年 その こと	REF - A - Per. REF - A - Dem. ELLIP - Nom. - Ot. - N-Top LEX.C. - COLL REF - A - Dem. LEX.C. - REIT - Gen. word	N2+M1 N2 N2 0 0 0	あたし (S47) →アサ (S46) [兄さん (S47) も] [兄さん (S47) と] 年齢だ (S49) (S49) (S49)
51	2	しかしね、。。。 その前	CONJ - Adv. REF - A - Dem.	0 N1	(S50) =死 (S49) の前
52	3	そのように 死 その日が来るまでの時間	REF - A - Dem. LEX.C. - REIT - Same item LEX.C. - COLL	0 N2 0	(S51) 死 (S49) その前 (S51)
53	3	<u>死</u> そのもの 放っとしても 生の残り	LEX.C. - REIT - Same item LEX.C. - COLL LEX.C. - COLL	0 0 0	死 (S52) 覚悟するにしても (S52) いまからその日が来るまでの時間 (S52)
54	6	あたし お母さん お母さんの詩 ここ (に帰って) 石 兄さん	REF - A - Per. LEX.C. - REIT - Same item LEX.C. - REIT - Same item REF - A - Dem. LEX.C. - REIT - Syn. LEX.C. - REIT - Syn.	N5+M2 N8 N8 N6 N26 N6	あたし (S50) →アサ (S46) お母さん (S45) 短い詩 (S45) 「森の家」 (S47) 記念碑 (S27) コギー兄さん (S47)

55	1	コギーを森に上らせる支度も せず／川流れのように帰って 来ない。	LEX.C. - REIT - Same item	N39	(S15)
<b>PARAGRAPH No.19</b>					
56	7	それ 兄さん 兄さんの三行 ここ お母さん お母さんの二行 応答	REF - A - Dem. LEX.C. - REIT - Same item LEX.C. - COLL REF - A - Dem. LEX.C. - REIT - Same item LEX.C. - REIT - Syn. LEX.C. - COLL	0 N1 N39 N7+M1 N1 0 N1	(S55) 兄さん (S54) (S16) ここ (S54) → 「森の家」 (S47) お母さん (S54) (S55) メッセージ (S54)
<b>PARAGRAPH No.20</b>					
57	6	お母さん この 俳句 兄さん 兄さんはコギーのまま 森に上らせる支度	LEX.C. - REIT - Same item REF - A - Dem. LEX.C. - REIT - Same item LEX.C. - REIT - Same item LEX.C. - COLL LEX.C. - REIT - Same item	0 0 N2 0 N9 N1	お母さん (S56) お母さんの二行 (S56) 俳句 (S54) 兄さん (S56) コギー兄さん (S47) (S55)
58	6	あたし 兄さん 兄さんが「森の家」にしばら く住もうと思立った 「森の家」	REF - A - Per. LEX.C. - REIT - Same item LEX.C. - REIT - Syn. LEX.C. - REIT - Same item	N8+M3 0 N10 N10	あたし (S50) →アサ (S46) 兄さん (S57) コギー兄さんが。。。 「森の家」に しばらく滞在するつもり (S47) 「森の家」 (S47)

		コギー コギーを森に上らせる支度の ひとつ	LEX.C. - REIT - Same item LEX.C. - REIT - Same item	0 0	コギー (S57) アカリさんなどのように森に上らせ る支度をする (S57)
<b>PARAGRAPH No.21</b>					
59	3	それから アサ 車	CONJ - Temp. LEX.C. - REIT - Same item LEX.C. - REIT - Same item	0 N12 N12	(S58) アサ (S46) 車 (S46)
<b>PARAGRAPH No.22</b>					
60	2	ここ 「森の家」	REF - A - Dem. LEX.C. - REIT - Same item	0 N1	車を道路側脇に寄せた (S59) 「森の家」 (S58)
61	2	兄さん 忘れてない	LEX.C. - REIT - Same item ELLIP - Nom. - Ot. - N-Top	N2 0	兄さん (S58) (S60) を
62	3	ここ あたし 降りてもらって	REF - A - Dem. REF - A - Per. ELLIP - Nom. - Ot. - N-Top	N1+M1 N2 0	ここ (S60) → (S59) アサ (S59) [兄さん (S61) が降りる]
63	2	届けます。 夕食を届けます。	ELLIP - Nom. - Sub. - P-Top ELLIP - Nom. - Ot. - N-Top	N2+M1 N1	[あたし (S62) →アサ (S59) が] [兄さん (S61) に]
64	4	兄さん 荷物 <u>も</u> 一緒に [absence of the verb] [absence of the verb+ subject]	LEX.C. - REIT - Same item REF - A - Comp. ELLIP - Ver. ELLIP - Nom. - Sub. - P-Top	N2 0 0 N3+M1	兄さん (S61) [夕食を届けます] (S63) [届けます。] (S63) [あたし (S62) →アサ (S59) が]

PARAGRAPH No.23					
65	5	さて、 東京でコギー兄さんと話をし て来た女性 コギー兄さん 劇団 「森の家」	CONJ - Add LEX.C. - REIT - Gen. word  LEX.C. - REIT - Syn. LEX.C. - REIT - Same item LEX.C. - REIT - Same item	0 N61  0 N61 N4	(S64) (S3) の女性幹部  兄さん (S64) 劇団 (S3) 「森の家」 (S60)
66	6	兄さん 兄さんの滞在  彼女 話のついた記念碑の始末 記念碑 劇団員	LEX.C. - REIT - Syn. LEX.C. - COLL  REF - A - Per. LEX.C. - COLL LEX.C. - REIT - Same item LEX.C. - REIT - Syn.	0 N7  0 N60 N38 0	コギー兄さん (S65) 兄さんが「森の家」にしばらく住も うと思立った (S58)  (S65) の女性 (S4-S5) (S27) 劇団 (S65)
67	4	仕事 付き合い  <u>してもらいます。</u> <u>してもらいます。</u>	LEX.C. - REIT - Gen. word LEX.C. - COLL  ELLIP - Nom. - Ot. - N-Top ELLIP - Nom. - Sub. - P-Top	0 0  0 N6+M1	記念碑の始末 (S66) いろいろ一緒にやってもらいたい (S66) [お兄さん (S66) ] [あたし (S62) →アサ (S59) が]
68	2	かれら 期待しています。	REF - A - Per. ELLIP - Nom. - Ot. - N-Top	N1 0	(S66) の劇団員 [ (S67) を]
69	1	よろしくねがいますよ！	LEX.C. - COLL	0	(S68) の期待について